（仮称）柏原スマートインターチェンジ地区協議会
設立趣意書

柏原市は、大阪平野の南東部、大阪府と奈良県との府県境に位置し、大阪の都心からわずか20kmほどの距離にありながら、緑の山々と美しい渓谷、豊かな川の流れなど、多彩な自然環境を備えた都市であり、山麓にはぶどう畑が多く、夏から秋にかけてはぶどう狩りが盛んに行われています。

また、本市の南部にある国分地域は国道25号、国道165号、西名阪自動車道などの主要交通網を有し、それらの沿道に工業団地が集積されるなど、古くから製造業が盛んであります。

しかしながら、既存の柏原インターチェンジは、入口が松原方面のみ、出口が天理方面のみのハーフインターチェンジで、名古屋・三重方面に向かう際には香芝インターチェンジ等を利用する必要があるなど、アクセスに時間を要するため、工業団地から計画的な輸送ができないなどの問題が生じています。

また、国道25号及び国道165号において、平成25年以降、台風や豪雨による通行止めが7回も発生し、水防活動や市民生活に大きな障害が生じるなど、防災の観点からも大きな問題となっております。

こうした中、本スマートインターチェンジの設置は、高速道路とのアクセス性向上により、地域産業の活性化、防災体制の強化、渋滞の緩和、観光振興の促進、救急搬送時の迅速な対応等に大きく寄与するものと期待しております。

このため、国土交通省、大阪府、大阪府警察本部、西日本高速道路株式会社、柏原市商工会及び柏原市が連携して、必要な検討・調整を行い、供用後も継続して、その社会便益・安全性・利用交通量・管理・運営形態等について、定期的にフォローアップし、必要に応じ見直すことを目的として、「(仮称) 柏原スマートインターチェンジ地区協議会」を設立するものです。

令和８年８月２１日

柏原市長 冨宅　正浩